

教育予算に関する学級担任アンケート

結果報告書

2008年3月10日

日本教職員組合

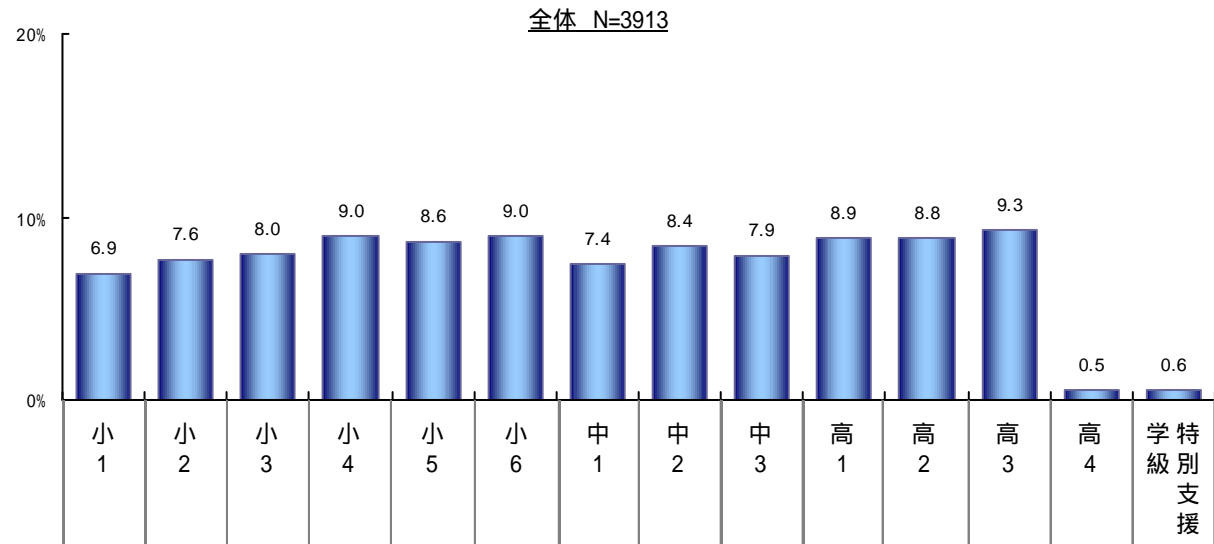
目次

調査実施概要	1
回答者属性	2
調査結果	3~6
経済力格差が学力格差に及ぼす影響	3
保護者負担軽減に対する意識	4
学校納入金未払いの実態の有無	5
学校納入金未払いの処理	6
記述回答	7~17
「格差社会における教育現場の実情について」 主な回答	7~15
「学校の教材教具や備品、設備」 ランキング	16~17

添付) 調査票

1. 調査目的 : 家庭の所得の違いによる教育格差の状況や自治体における教育予算の格差状況を明らかにし、その実態を広く国民にアピールするとともに、国・自治体に改善を求めること
2. 調査方法 : 郵送調査(無記名式)
3. 調査対象 : 各都道府県義務制諸学校の学級担任
及び各都道府県高等学校の学級担任
4. 有効回収数 : 3913s
5. 実施期間 : 2007年 9月25日(火)～12月21日(金)

1 所属学年



学校校種			所属学年													
	小学校	N=1871	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4	学特別支援
小学校	N=1871	14.3	15.6	16.6	18.5	17.7	18.6	0.1	-	-	-	-	-	-	0.1	1.1
中学校	N=920	-	-	-	0.1	-	-	30.7	35.3	32.9	-	0.1	-	-	-	0.1
高等学校	N=1072	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	32.3	31.4	33.5	1.8	-	
養護学校	N=40	10.0	12.5	7.5	10.0	10.0	10.0	12.5	7.5	15.0	7.5	15.0	7.5	-	2.5	

XX.X は全体比+10point以上
 XX.X は全体比+5point以上
 (%)

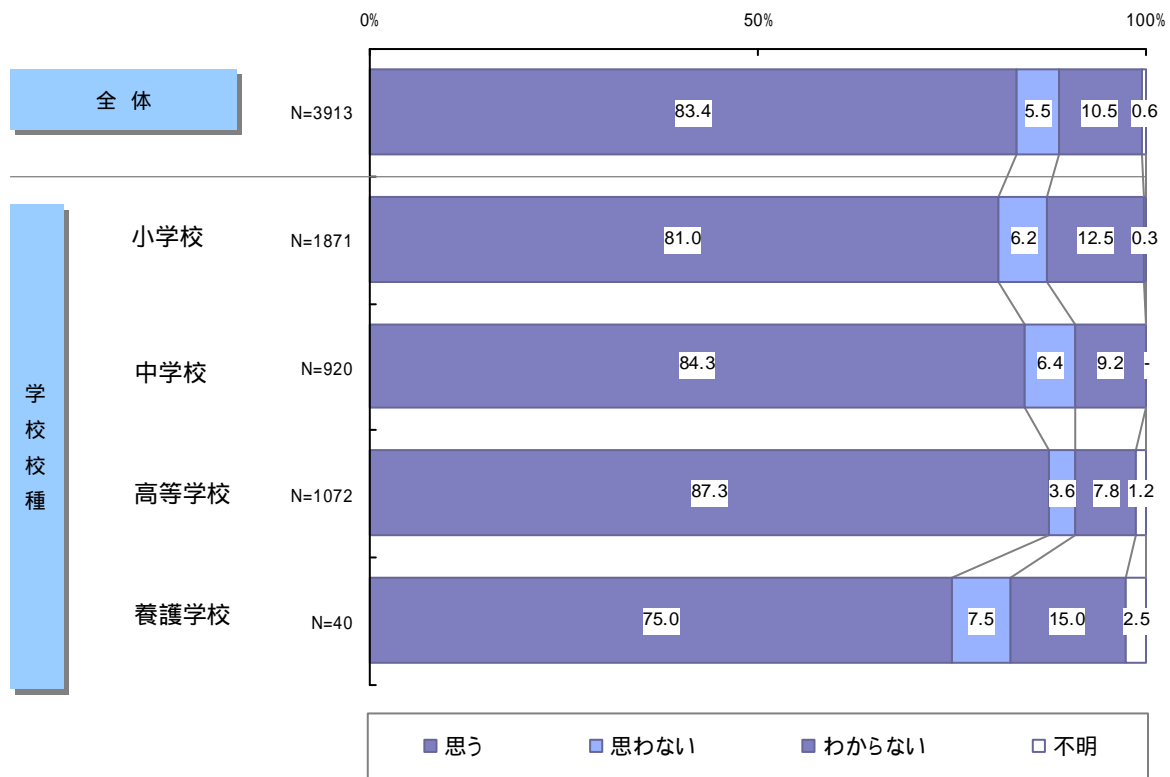
III. 調查結果

経済力格差が学力格差や進路に影響を及ぼしていると思う者は、全体の83%と8割以上に上る。

学校校種別に見ると、<小学校>より<中学校>、<中学校>より<高等学校>の方が「思う」が高くなる傾向が見られる。
 <養護学校>は75%と他の校種に比べてやや低いものの、7割以上が「思う」と回答している。

1 経済力格差が学力格差に及ぼす影響

Q.家庭の経済力の格差が、子どもの学力格差や進路に影響を及ぼしていると思いますか。

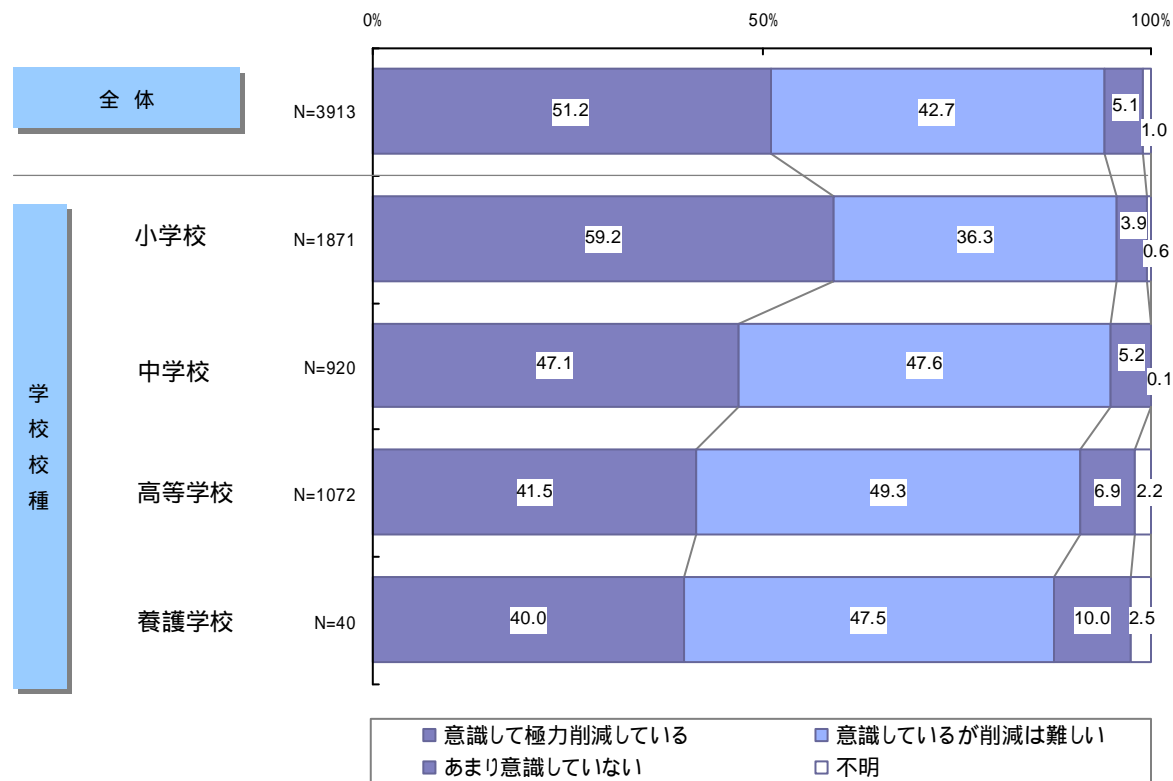


学校納入金を決める際の保護者負担軽減に対する意識としては、「意識して極力削減している」(51%)、「意識しているが削減は難しい」(43%)との“意識している”者が全体の9割以上に上る。「極力削減している」と「削減は難しい」がおおよそ半々といった状況。

学校校種別に見ると、<高等学校>より<中学校>、<中学校>より<小学校>の方が「意識して極力削減している」が高くなる傾向が見られる。

2 保護者負担軽減に対する意識

Q.学年費、学級費や副教材費などの学校納入金の総額を決める際に、保護者負担軽減を意識していますか。

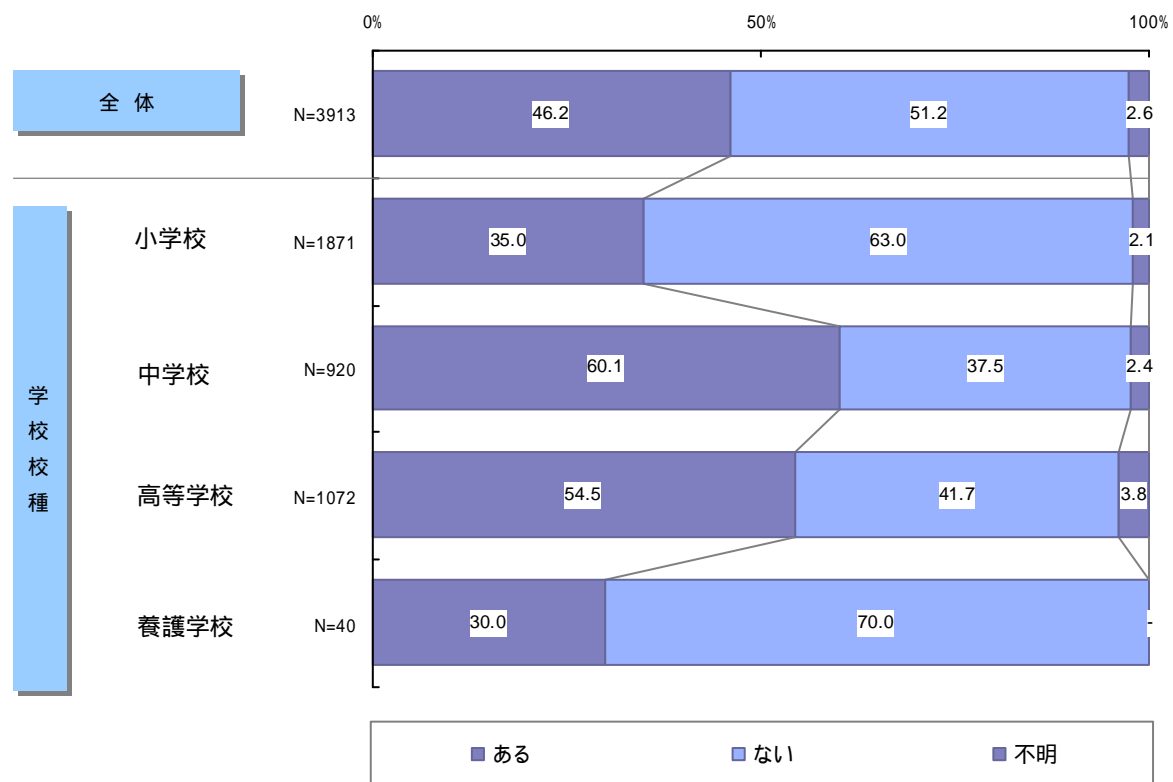


学校納入金未払いの実態が「ある」との回答は、全体の46%と半数弱に上る。

学校校種別に見ると、「ある」との回答は<小学校>(35%)に比べて<中学校>(60%)、<高等学校>(55%)の方が高くなっている。

3 学校納入金未払いの実態の有無

Q.あなたの学級に、学校納入金(学年費、学級費、修学旅行費、遠足代、副教材費など)が未払いな実態がありますか。

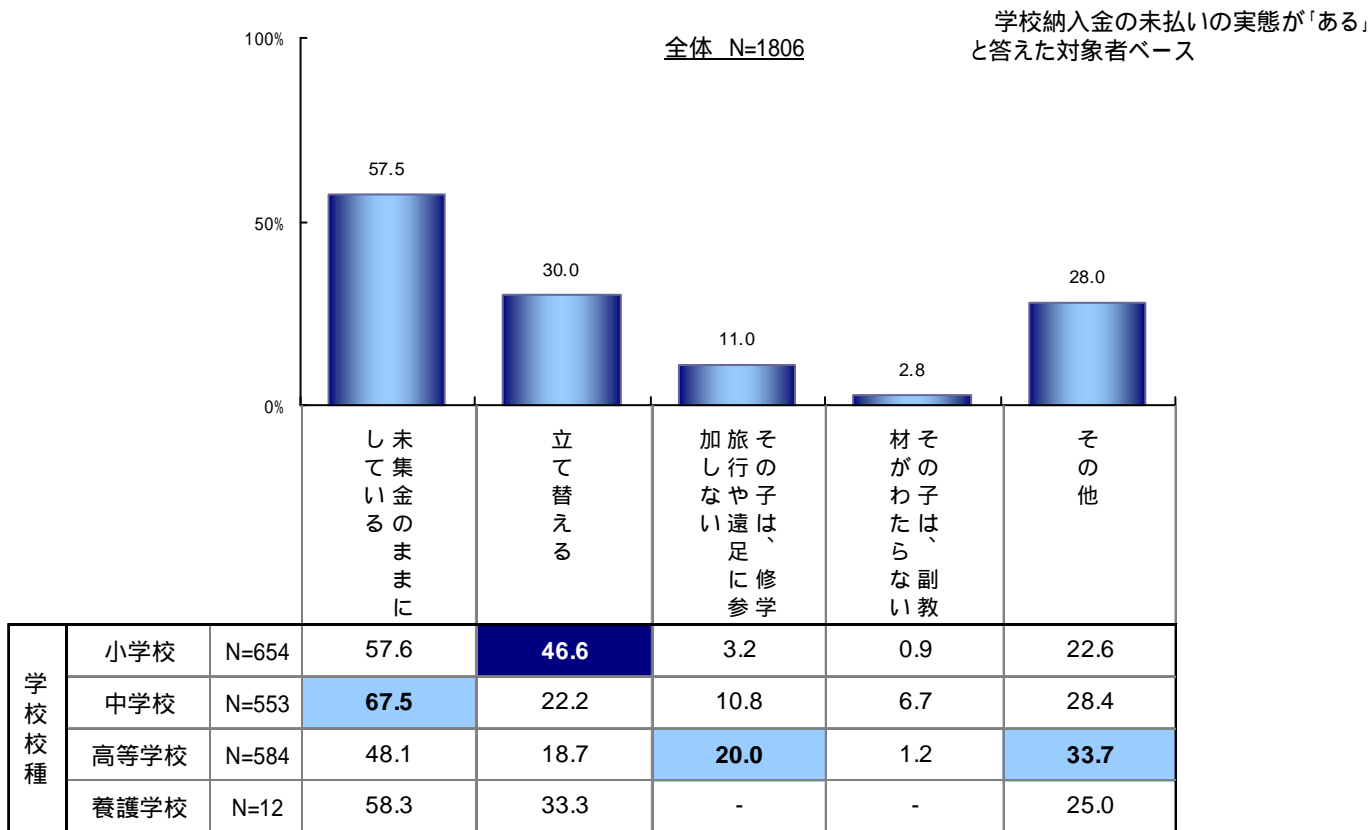


学校納入金未払いの処理については、「未集金のままにしている」(58%)が全体の6割弱に上る。「立て替える」(30%)が3割、「その子は、修学旅行や遠足に参加しない」(11%)、「その子は、副教材がわたらない」(3%)といった回答も見られている。

学校校種別で見ると、<小学校>で「立て替える」(47%)、<中学校>で「未集金のまま」(68%)、<高等学校>で「その子は、修学旅行や遠足に参加しない」(20%)が全体に比べて高くなっている。

4 学校納入金未払いの処理

Q.未払い金の処理について、実際に経験したことがあるものすべてに をつけてください。



XX.X は全体比+10point以上

XX.X は全体比+5point以上

(%)

IV. 記述回答

質問 「格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください」

回答を内容に応じて、「生活格差」、「学力格差」、「進路格差」、「地域格差」の4つのカテゴリーに類型化
「生活格差」に関してはさらに4つに、「学力格差」に関してはさらに2つに細分化

各カテゴリーごとに主要な回答を抜粋(原文ママ、固有名詞や個人の特定につながる表現等については編集)

生活格差

学校生活

家庭生活

習い事

対人関係

学力格差

学習意欲

学力

進路格差

地域格差

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

生活格差

学校生活

- 休日に実施されている通例「全員受験」模試の辞退。学校祭等で生徒達が「自主的」に作成するクラスTシャツ代と家計と「クラスの団結」の間での板ばさみ。その他、事例多数。(NO.10902 北海道 高等学校)
- 交通費が払えないので、校外学習(見学会など)に参加できない。受験料がかかるので資格取得に消極的。生活費のために、テスト前でもアルバイトを休めない。上級学校に進学が決まっても、入学金等が払えず辞退(又は中退)。本当は進学したくても、就職せざるをえない。辞書を買う余裕がないので、学校で貸し出しているため、家庭での学習がむずかしい。(NO.331 東京都 高等学校)
- やりたい部活があっても遠征費などお金のかかる部活には入部できない。その子にとってはそのスポーツが生きるエネルギーになっているのに、親の経済力を理由に断念しなくてはならない。(NO.99 鳥取県 小学校)
- 授業料が払えないために休学、退学をする(授業料は本人が負担している)。親の収入が子どもの文化的素養に直接的に影響している。(NO.11792 宮崎県 高等学校)
- 本校は前納制の為、授業料が準備できずに休学を余儀なくされている生徒が多い。(NO.275 沖縄県 高等学校)
- 親の収入減の為、退学を余儀なくされている生徒が毎年数名いる。又、アルバイト加重の為、学業を捨てざるを得ぬ生徒あり。(NO.11236 千葉県 高等学校)
- 給食費が未納であることを生徒本人が知っているため、体調不良等により食べることを遠慮しているような発言があった。(NO.1156 兵庫県 中学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

生活格差

家庭生活

- 保護者の生活力が安定していないと、子どもへの接し方(関わり方、勉強を見るなど)が良くないことが多い(放任する)。(NO.11331 千葉県 小学校)
- 家庭が荒れた状態で、勉強どころではない家庭もある。(NO.11206 福岡県 中学校)
- 学費のためアルバイトをしなければならない生徒が増加している。(NO.189 鳥取県 高等学校)
- 働いておられる保護者が、子どもと向き合う時間が足りておらず、学校の教員が生活上のルールや礼儀などを教える場面が非常に多く見られる。経済的な不安も子どもの生活に影響が大きいと思う。学校でストレスを発散したり、一方で黙りこんで周囲とコミュニケーションが取れていない。(NO.170 鳥取県 高等学校)
- 親の厳しい労働環境(夜おそくまでの就労、低賃金等)が、子どもの生活をおびやかし、学校でも落ちついて学習や生活ができにくくしている実態がある。長期的に見れば、学力にも影響がおよぶと予想できる。(NO.10488 三重県 小学校)
- 母子家庭で母親が病気のため、4ヶ月も授業料を滞納していた生徒は、退学して働きながら妹や弟の面倒をみたいというなど、彼らの現実を知り、大変心がいたんだ(最終的に退学はしなかった)。(NO.278 沖縄県 高等学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

生活格差

習い事

- 習い事や塾に多く通う子と、何もせず両親とも家庭学習に関心のない子では、学習に対する意欲に差も見られる。
(NO.11358 千葉県 小学校)
- 市内の塾にかよったり、ピアノ、空手、剣道など習い事や、部活動以外の活動にお金(時間を含め)をかけることのできる生徒がいる一方、制服、通学靴など最低限のものさえ購入が難しい生徒もいる。(NO.68 鳥取県 中学校)
- 例えば受験や進学のために学校以外の教育機関である学習塾に通っている実態や、教養や技術を習得する為の習い事に通っている実態が経済力の格差でかなりあります。校内では授業外での模擬試験も受験料が高額な為、ここでも格差が発生しています。(NO.12583 広島県 高等学校)
- 土、日、連休になって、経済的に裕福な家庭の子は家族での外出、旅行、レジャーetc、楽しい思い出ができる経験が増え、そうでない子は、家庭内で、子どもだけで過ごしたり、学童などで過ごしたりして、変化がなく生活作文等の題材が思いつかないことが多い。学習塾、おけいこ事などで学力や技能の差もでてきている。(NO.10549 長崎県 小学校)
- 経済力のある家庭は、習い事や塾に通わせる余裕があるので、保護者の考えで、力をつけることができるが、経済力のない家庭は、金銭的な余裕もなく、また、子どもの生活を見つめることも十分にできていない。(NO.10564 長崎県 小学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

生活格差

対人関係

- 経済的に苦しい家庭の子どもは着ている衣服が毎日同じであったり、家庭での教育水準に差があったりすることから、子ども同士の間関係の中に「できること = 良い(強い)」等の決めつけが見られる。(NO.12236 大阪府 小学校)
- 経済的に厳しい家庭は進学先も私学ははじめから選択肢に入れることができない。子どもにかかるお金や精神的余裕がないので、そういう子どもは学力が低い傾向にあるし、対人関係が築きにくかったり、表情にとぼしい傾向がある。(NO.1173 兵庫県 中学校)
- いじめの要因(「貧乏」と言われること)。(NO.10608 石川県 小学校)
- 「低所得なので何も購入できないだろう」とまわりから言われいじめられる。(NO.747 神奈川県 小学校)
- 貧しい家の子どもほど、クラスの中でいじめられっ子になることが多い。(NO.12343 愛知県 小学校)
- 体操着を1着しかそろえられない家庭があり、1週間同じ服を着ている。においがしたり汚れたりしているのに、そこからいじめに発展することもある。(NO.11393 千葉県 小学校)
- 家庭が安定しないため、欠席が多かったり通院もできていなかったりする。そのため学習の遅れや、友達との関わりに影響がでてくる。(NO.12449 佐賀県 小学校)
- 金銭的に余裕のあるなしで、保護者間にも付き合いの差があり、それが子どもたちの友達関係にも影響している。(NO.502 鹿児島県 小学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

学力格差

学習意欲

- 「お金がない」と子どもに言いすぎるため、早くから進学をあきらめてしまう子もいる。(NO.11580 滋賀県 中学校)
- 家庭の経済状況を子どもなりに配慮し、行事に参加しなくて学校から足が遠のく、あるいは意欲が無くなる、進学を断念するなど格差の悪循環を生んでいる。(NO.11582 滋賀県 中学校)
- “この程度でいい”とはじめから決めているような節があり、学力(学歴)や収入の面で、上を目指そうとしない。“勉強しなくてもどうにかなる”といった雰囲気を感じる。(NO.11823 宮崎県 高等学校)
- 生活の為厳しい条件で働く親の下、家庭での学習力不足。経済的状况により進学を断念し、やる気をなくす子ども。学校をやめて働いて欲しいと言う親。(NO.10211 大分県 高等学校)
- 保護者が生活の維持の為に子どもの生活をしっかり見られない。夜中に働かなければならない状況があり、子どもが心理的な不安から学習に集中できない。(NO.10455 三重県 小学校)
- 保護者が夜遅くまで働かねばならず、それに伴い子どもも夜ふかしになり、次の日の学習に支障をきたすことが多い(体調不良、集中力が続かないなど)。(NO.10867 北海道 小学校)
- 保護者の雇用が不安定で、生活自体も不安定になり学習へと向えない状況が多い。(NO.11216 福岡県 小学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

学力格差

学力

- 経済的に厳しい家庭の子どもが学力が低いことが多い。(NO.542 鹿児島県 中学校)
- 低収入、多忙な保護者は子どもが基礎学力をつける小・中学校時に家庭で学習の手助けをするのが困難だと思う。そういうことの積み重ねが子どもを学習権から遠ざけている、と本校の生徒を見て思う。(NO.177 鳥取県 高等学校)
- 収入の豊かな家庭の子どもが学力を身につけ(生活態度を含めて)きびしい子が低学力、問題行動に走る傾向が残念ながらある。(NO.11190 福岡県 中学校)
- ゆとりのある家は子どもにもお金をかけるので、それが学力差につながっている。また、その上忙しい親は(生活のため)子どもを充分みれず、学力定着をはばむので差が広がる。(NO.11156 福岡県 中学校)
- 親の社会的地位が高い子どもは、習い事をしていることが多く、学力も高い傾向がある。(NO.691 山形県 小学校)
- 例えば、土日や平日の放課後、親が働いていて家にいない場合、家庭での学習がおろそかになる傾向がある。経済力があって、塾などに頼れるならば学習時間が確保される確率は高くなる。学校での拘束時間が短くなった今は、家庭でどれだけドリル(復習)ができるかで学力にも差がついてくると思う。(NO.1005 福井県 中学校)
- やはり小さい頃、いかに本を読んでいるかが子どもの学力を左右すると思う。本のある環境は、ある程度経済的に余裕がないと難しい。子ども達を見ていて、それを感じることもある。(NO.11665 宮崎県 小学校)
- 子どもの起きている時間も働いているため、低学年の子どもの音読練習を聞いてあげることができない。余裕のある家はしっかり聞き励ましてやれるから子どもの意欲も高まり上手になり学力ものびる。(NO.10615 石川県 小学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

進路格差

- 進学か就職か選択条件の一番大きいのが、「お金が出せるか、出せないか」です。成績の良悪よりも、意欲の有無よりも、お金の有無が大きいです。(NO.10052 山形県 高等学校)
- 就職に必要な免許、資格等が日々の生活の困窮のために取得できず就職の機会を逸し更に生活が困窮していく悪循環をおこしている。(NO.10788 新潟県 高等学校)
- 進学したくても学費が払えずに断念している。生徒の学習への動機づけが全くなされていないのも格差。(NO.11087 福岡県 高等学校)
- 進学において経済力のある生徒はAO入試等で入学希望後でも複数回の受験が可能(受験料の点で)であるが、経済力のない生徒は地元以外の受験地さえも行けない。資格検定料を支払えない生徒は受検を断念する。(NO.10250 鹿児島県 高等学校)
- 年収の低い家庭の生徒も良く頑張っていると思うし、良い成績を上げる生徒も多いが、高額な資格などは受験が少ない様だ。(NO.10090 山形県 高等学校)
- 学力、人物共に申し分なく進学を希望しても、家庭的事情により就職になってしまう。(NO.215 沖縄県 高等学校)
- 収入が少ないため、進路選択が限定されている。収入が少ない家族は4年制大学進学を希望しないことが多い。(NO. 10291 広島県 高等学校)

Q.格差社会と教育の実情について、事例などありましたらお書きください。

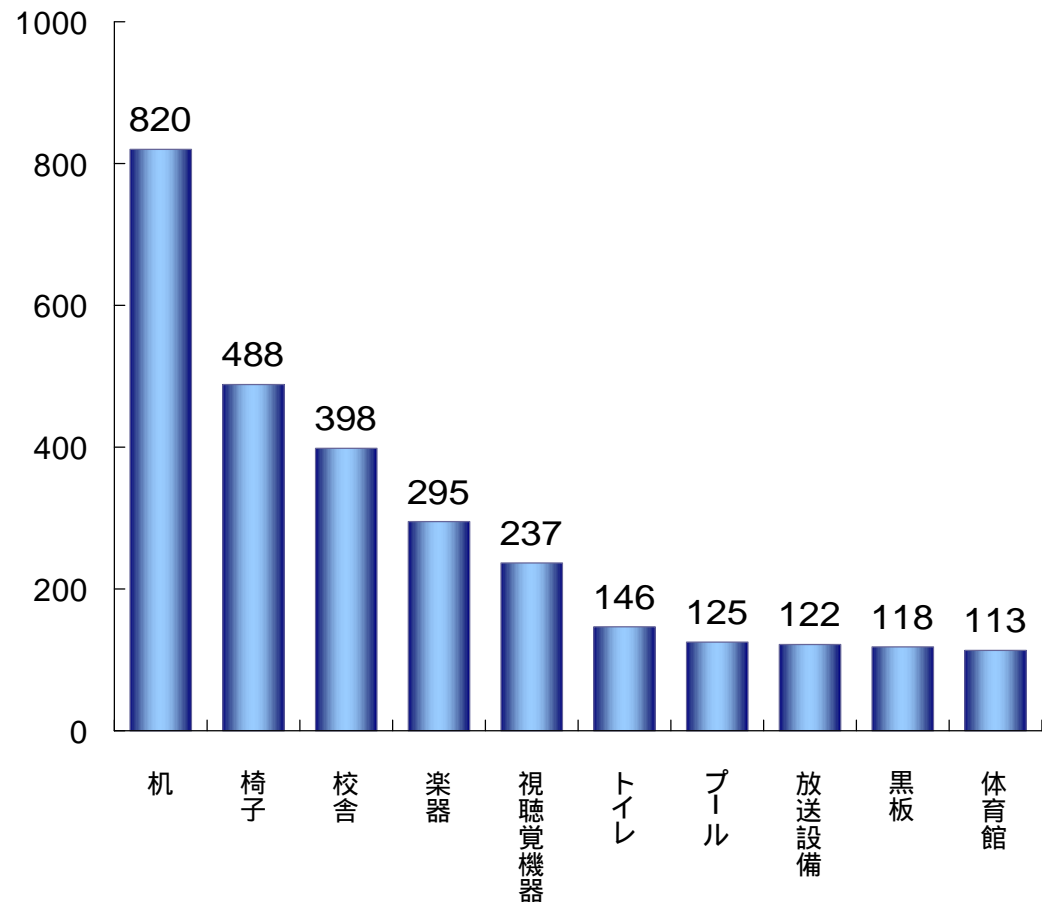
地域格差

- 地方における文化的施設がなく、生徒達は本物の音楽や芸術を味わうことがない。総合学習のバスがけずられるなど、今まで行なわれたものがカットされている。(NO.10888 北海道 中学校)
- 市の経済力がそのまま教育現場を直撃しています。少ない教育予算の中で教員の知恵や汗ではどうしようもないところまでできているのではと思います。A市では、統合した小学校とそうでない小学校の格差が(環境整備面での)大きすぎる。例えば風通しの悪い教室では真夏日の体感温度が35度以上の日も多々あります。統合小学校では全館冷房のところもあると聞きます。この格差を何とかしてほしい。
(NO.1319 兵庫県 小学校)
- 地方はお金がないので、学校の設備が悪く(古い、プレハブに近い)、子どもたちに十分な指導ができない。楽器は10~20年前のものを修理しながら使っており、数も足りない。もう10年以上新しい楽器はふえていない。楽譜やCDなども、自費で負担することが多い。(NO.11645 宮崎県 小学校)
- 地域から、学習塾がてっぺんした(生徒が集まらない、学力が低位な生徒が多いため)。貧しい家庭は、家に学習するスペースがないため、家庭学習ができない。(NO.911 静岡県 中学校)
- 地域格差を強く感じる。子どもが本屋に行ってもというか本屋そのものがなくなり、文化的な面がますます遅れてしまっている。メディアの発達と情報があふれていても取り入れるための方法にもとても地域差があると思われる。
(NO.11314 千葉県 中学校)

Q.学校の教材教具や備品、設備で以下の実態にあるものがあれば、具体的に品名を記入してください。

1 古くて老朽化している

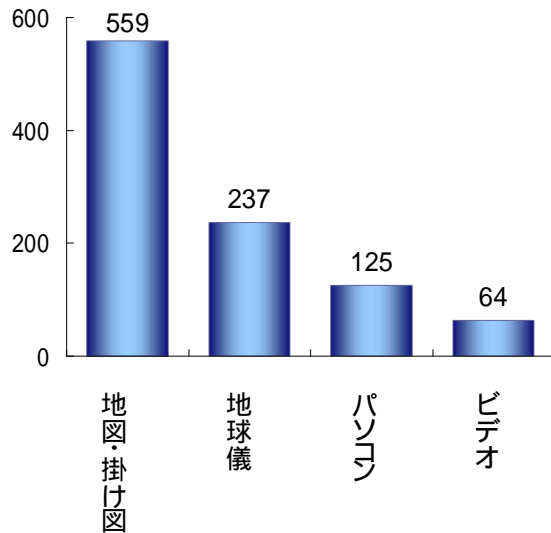
1位 机 (児童生徒用、教職員用、長机など)	820人
2位 椅子 (児童生徒用、教職員用、パイプ椅子など)	488人
3位 校舎	398人
4位 楽器 (オルガン、ピアノなど)	295人
5位 視聴覚機器 (テレビ、ビデオ、CD、OHPなど)	237人
6位 トイレ	146人
7位 プール	125人
8位 放送設備	122人
9位 黒板	118人
10位 体育館	113人



Q.学校の教材教具や備品、設備で以下の実態にあるものがあれば、具体的に品名を記入してください。

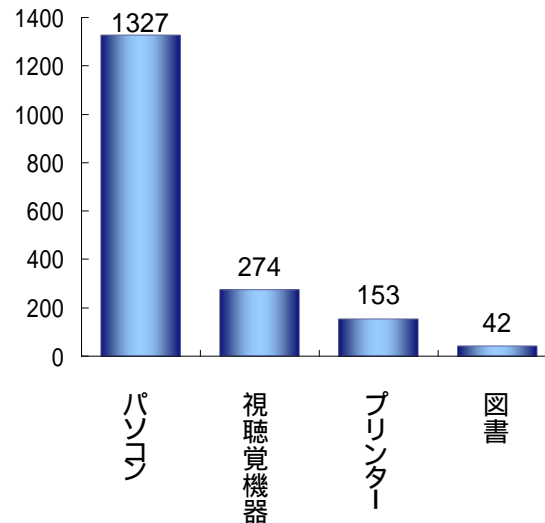
2 型が古くて教材教具として適さない

1位	地図・掛け図	559人
2位	地球儀	237人
3位	パソコン	125人
4位	ビデオ	64人



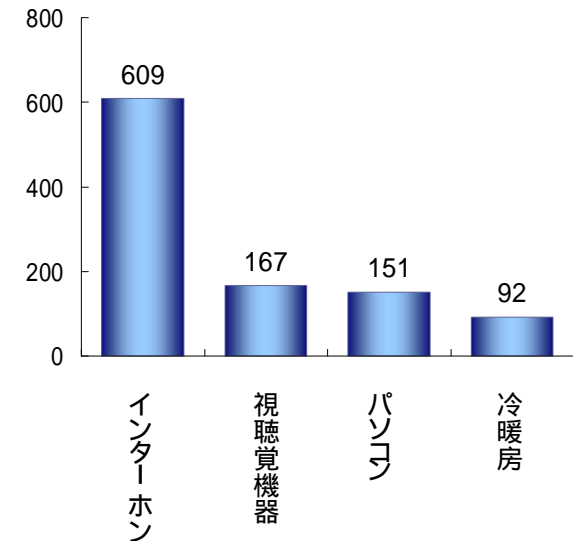
3 数が少ない

1位	パソコン	1327人
2位	視聴覚機器 (プロジェクター、DVD、ビデオなど)	274人
3位	プリンター	153人
4位	図書	42人



4 必要なものがない

1位	インターホン	609人
2位	視聴覚機器 (テレビ、ビデオ、DVDなど)	167人
3位	パソコン	151人
4位	冷暖房	92人



添付)調査票

☆教育予算に関する学級担任アンケートのお願い

日本教職員組合

三位一体改革による教育関係補助金や地方交付税の削減とともに、小泉・安倍政権による地方軽視の諸政策により、教育予算・教育条件に自治体間格差が拡大しています。一方、所得の二極化が顕著になっている中、家庭の所得の違いによる教育格差も広がっています。こうした実態を広く国民にアピールし、教育条件の拡充を求めていくことは、極めて重要なことです。

こうした、取り組みの一環として学級担任アンケートを実施しますので、ご協力いただきますようお願いいたします。なお、学校名や個人名を公表することはありません。

① あなたの所属する学校の所在地の県名、市区町村名をお答えください。
県名 () 市区町村名 ()

② あなたの学校の校種は何ですか

ア 小学校 イ 中学校 ウ 高等学校

③ あなたの所属している学年は何ですか

小1 小2 小3 小4 小5 小6
中1 中2 中3 高1 高2 高3 高4

④ 家庭の経済力の格差が、子どもの学力格差や進路に影響を及ぼしていると思いますか。

ア 思う イ 思わない ウ わからない

⑤ 学年費、学級費や副教材費などの学校納入金の総額を決める際に、保護者負担軽減を意識していますか。

ア 意識して極力削減している イ 意識しているが削減は難しい
ウ あまり意識していない

⑥ あなたの学級に、学校納入金（学年費、学級費、修学旅行費、遠足代、副教材費など）が未払いな実態がありますか。

ア ある イ ない

⑦ ⑥で「ある」と答えた方のみ、お答えください。未払い金の処理について、実際に経験したことがあるものすべてに○をつけてください。

ア 立て替える
イ 未集金のままにしている
ウ その子は、副教材がわたらない
エ その子は、修学旅行や遠足に参加しない
オ その他 ()

⑧ 格差社会と教育の実情について、事例などがありましたらお書きください。

()

⑨ 学校の教材教具や備品、設備で以下の実態にあるものがあれば、具体的に品名を記入してください。

・古くて老朽化している→例えば、児童生徒用の机、オルガン
()

・型が古くて教材教具として適さない→例えば、ソ連のままになっている地球儀
()

・数が少ない→例えば、公費による事務用パソコン
()

・必要なものがない→例えば、教室と職員室を結ぶインターホン
()

※ ご協力ありがとうございました、回答用紙は支部等を通じて県教組に送ってください。